

横浜という大都市の変貌の一面に「何かしら心がかり」をもつ市民の数は、決して少なくないだろう。

2 大都市市民の悩み

たまたま昭和四十五年七月十五日という一日、市民から市に持ち込まれた悩みや不満や要求のいくつかをあげてみたが、いったい横浜に住む市民は、身のまわりのことで、どんな問題に一番困っているのだろうか。まず昭和四十四年十二月、市民生活調査委員会がおこなった『市民の生活意識調査』をみてみよう。この調査の中の質問では、

「あなたの身のまわりの問題で、一番困っていることを、つぎのうちから一つあげて下さい。住宅・通勤・

産業公害・公園緑地・物価・学校保育所・交通公害・環境衛生・その他」

ときいている。

それによると、回答の第一位は「物価」で、その率は三八・五パーセントときわ立って高い。とくに西区の四五・二パーセントをはじめとして、港南・緑・旭・南・中・磯子の各区では「物価」をあげた人が四〇パーセントをこしている。

ついで「住宅」の一九・六パーセント。最高は鶴見区の一・四パーセントまで、割合にその比率が全区で平均化しているのは、年間の人口増九万人という過密現象が、全市にしみ込んできていることのあらわれであろう。

三番目の「交通公害」一一・九パーセントは、自動車がいかに都市での生活を侵害しているかをしめた数字である。神奈川区の二〇・五パーセントが非常に高いのを除けば、これも各区ほぼ平均しており、交通公害の意識が、全市域に広がっているとみることができ

る。

「学校・保育所」は、どこの住民集会でもかならずだされる問題だが、ここでの比率がその割合に高くないのは、回答にこの項目を取り上げる人がその年ごろの子どもをもつ人たちにかぎられているせいであろうか。その点「産業公害」も、関係する地域の人たちには、きわめて強い被害意識があるにかかわらず、全体としてみると、この項目の比率は高くなっていない。もっとも、この調査の時点以後、全国各地で急速に産業公害が深刻になり、またその実態が明らかにされてきているので、この数字も、そのことを考慮にいれてみるべきであろう。

つぎに昭和四十二年、大都市企画管理者会議がおこなった『大都市の魅力度調査』をみてみよう。さきの『市民の生活意識調査』の質問が「あなたの身のまわりの問題で、一番困っていること」であったのにたいし、ここではもっと一般的な問題として、都会生活の欠陥についてつぎのように質問している。

表 1-1 身のまわりで困っているもの

質問 あなたの身のまわりの問題で、一番困っていることをつぎのうちから1つあげて下さい。

	住宅	通勤	産業 公害	公園 緑地	物価	学校・ 保育所	交通 公害	環境 衛生	その他
鶴見	165	26	54	21	207	10	53	40	37
神奈川	87	17	7	12	126	8	79	23	27
西	44	6	5	11	103	8	25	9	17
中	87	16	21	24	177	5	52	28	25
南	113	21	8	26	209	7	61	17	47
港南	39	23	1	10	93	10	23	7	9
保土ヶ谷	96	22	8	21	137	12	31	29	29
旭	65	29	0	15	154	13	47	21	20
磯子	73	22	8	20	137	10	36	12	20
金沢	48	23	2	5	106	12	30	12	31
港北	109	47	11	32	222	15	81	43	28
緑	38	42	3	7	146	32	32	13	21
戸塚	61	82	4	21	171	13	61	31	50
瀬谷	35	33	3	19	98	3	32	20	15
全市	件 1060	409	135	244	2086	158	643	305	376
	% 19.6	7.6	2.5	4.5	38.5	2.9	11.9	5.6	7.0

資料：「市民生活意識調査 昭和44年12月」（横浜市民生活調査委員会）

「あなたは、都会生活のよくない点はどんなことと思
いますか。つぎの中から二つだけあげて、第一位を二
重マル、第二位には一重マルをおつけ下さい。」

①住宅難②通勤難③公害がひどい④公園・緑地が少な

い⑤交通事故や交通混乱がひどい⑥刺激が強く神経が
つかれる⑦物価が高い⑧犯罪が多く、青少年が悪にそ
まりやすい⑨世間が冷たく、人情がうすい」

横浜の場合、一番よくない点についての質問にたいす

表 1—2 大都市の魅力度調査 1

都会生活のよくない点	都市生活で一番悪い点		調査各市構成比					
	大都市計	横浜市	名古屋市	京都市	大阪市	神戸市	北九州市	
住宅難	(729)	18.9%	21.6%	16.5%	21.1%	16.1%	21.5%	17.9%
通勤難	(139)	3.6	5.0	3.1	4.3	2.5	5.2	2.0
公害がひどい	(447)	11.6	16.4	6.5	5.9	15.4	10.6	14.1
公園・緑地が少ない	(253)	6.6	4.7	7.6	4.4	9.0	5.7	7.2
交通事故・交通混乱がひどい	(1,115)	28.9	25.9	31.1	34.5	30.1	25.0	27.2
刺激が強く神経が疲れる	(155)	4.0	3.2	5.5	3.2	3.4	5.5	3.3
物価が高い	(645)	16.7	18.0	17.4	17.8	14.2	15.3	18.1
犯罪が多く青少年が悪にそまる	(195)	5.0	2.4	5.8	4.8	2.0	5.5	6.8
世間が冷たく人情がうすい	(117)	3.0	1.8	4.6	3.7	2.7	4.0	1.6
わからない	(57)	1.7	1.0	1.9	0.3	4.6	1.7	1.8

注：カッコ内は実数 資料：「大都市の魅力 昭和42年」（大都市企画管理者会議）

る回答で、数の多い方からの順位は、第一位「交通混乱」、第二位「住宅難」、第三位「物価高」となっている。その『市民の生活意識調査』の回答順位に比べると「物価高」と「交通公害」の第一・三位が入れる

かわっている。これは、最近の物価上昇の重圧感が『大都市の魅力度調査』より新しい時点の調査である『市民の生活意識調査』の方でより強くあらわれたとみてよからう。しかし、いずれにしてもベスト・スリーで

表 1—2 大都市の魅力度調査 2

都市生活で二番目に悪い点	調査各市構成比							
	六大都市計	横浜市	名古屋市	京都市	大阪市	神戸市	北九州市	
上問のうち二番目によくないと思うもの								
住宅難	(379)	9.8%	11.3%	8.5%	10.5%	6.8%	10.7%	11.7%
通勤難	(164)	4.3	7.6	3.6	3.4	2.2	4.7	3.5
公害がひどい	(385)	10.0	13.0	6.1	5.9	13.0	10.7	10.8
公園・緑地が少ない	(537)	13.9	12.2	17.9	11.7	16.2	11.6	13.3
交通事故・交通混乱がひどい	(699)	18.1	20.9	19.9	18.3	17.9	15.3	16.2
刺激が強く神経が疲れる	(261)	6.8	6.3	5.9	7.5	7.5	8.2	6.8
物価が高い	(685)	17.8	17.2	19.9	18.7	17.9	17.1	16.3
犯罪が多く青少年が悪にそまる	(409)	10.6	7.9	8.7	14.2	8.6	12.1	12.7
世間が冷たく人情がうすい	(209)	5.4	2.4	6.7	7.8	5.2	5.5	5.1
わからない	(124)	3.3	1.2	2.8	2.0	4.7	4.1	3.6

注：カッコ内は実数 資料：「大都市の魅力 昭和42年」（大都市企画主管者会議）

みれば、その内容項目は同じである。

『大都市の魅力度調査』では、第一位が「交通混乱」であることは、六大都市に共通しており、第二位以下に、多少順位の違いはあるが、「住宅難」「物価高」「公害」が上位をしめていることは共通している。これらの調査の結果からみても、現在の日本で、大都市の市民が悩んでいる大きな問題は、まずこのへんにあると考えるとよいだろう。

「よくない点の二番目」についての質問では「交通混乱」「物価高」「公園・緑地が少ない」などが上位にあげられている。しかし、この質問にたいする回答では、都市によっていくらかニュアンスの相違があらわれている。たとえば横浜・大阪・北九州の「公害」とか、横浜・北九州の「物価高」や、大阪の「公園」の率が他に比べて高いのは、それぞれの都市の現状を敏感に反映していると理解してよいかも知れない。